

労働者協同組合法
成立記念作品

人は人のために働いて
支え合い、
人のために死ぬ。
結局はそれ以上でも
それ以下でもない。

これは人間の仕事である。

没後5年 特別上映&トークセッション

「灯火（ともしび）をつなぐ～北九州からアフガニスタンへ」

中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは

12月8日(日)13:30 30分前開場 16:30 終了

北九州市立商工貿易会館 2階多目的ホール (定員 300名)

医師中村哲の 仕事・働く ということ

語り◎室井滋 朗読◎塚本晋也

写真・映像提供◎ベシワール会／PMS
企画・提供◎日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会センター事業団
一般社団法人 日本社会連帯機構
製作◎日本電波ニュース社 HD／16:9／カラー／47分

医師中村哲の 仕事・働く ということ

アフガニスタンとパキスタンで、
病や戦乱、そして干ばつに
苦しむ人々のために
35年にわたり
活動を続けた男がいた。

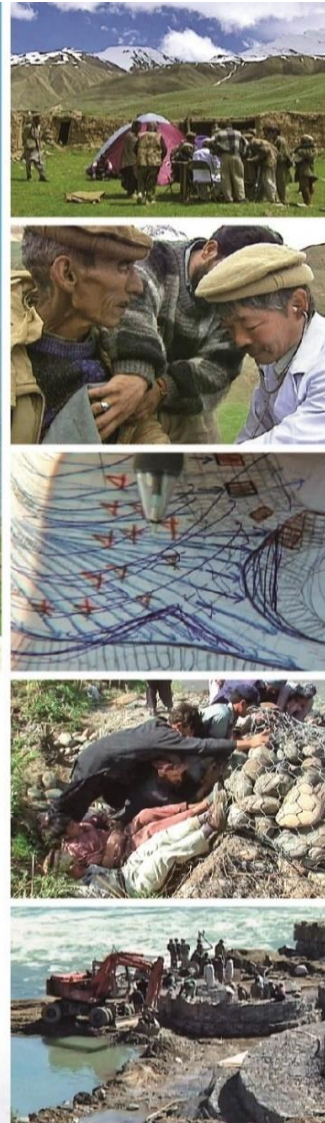
1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は『現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと』である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない」荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。

親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。

中村医師は言う「これは人間の仕事である」



12/8(日) 13:30~上映(開場 13:00) 15:00~トークセッション

「医師・中村哲没後5年、灯火(ともしび)をつなぐ~北九州からアフガニスタンへ」

~中村医師が幼少期を過ごし、その後の思想形成や活動の原点となった北九州で、映画『医師中村哲の仕事・働くということ』を上映し、谷津賢二監督らのトークセッションを通じ、今、私たちにできることは何かを考えます~

当日先着300人*当日午前、昭和館上映『荒野に希望の灯をともし』の半券をお持ちの方は500円引

参加費一般 1,500円 高校生以下障がい者の方 800円 小学生以下無料

登壇者 谷津賢二監督(左写真:日本電波ニュース社、21年にわたり中村医師を現地取材。本作監督)
杉山大二郎さん(右イラスト:元ベシャワール会現地ワーカー)



著書「仁義ある戦い~アフガニスタン用水路建設・まかないボランティア日記」

玉井行人さん(株式会社ギラヴァンツ北九州取締役会長、中村医師のいとこ)

平本哲男さん(本作企画:ワーカーズコープ理事長)

 **WORKERS' COOP**



お電話でのお問合せは(092-441-7587) *土日祝は休み

メール mojifj@roukyou.gr.jp もしくは、FAX (093-342-8254) へ

主催:一般社団法人 日本社会連帯機構

共催:北九州文化研究会・北九州エリア医師中村哲映画上映実行委員会

・九州沖縄社会連帯機構

協力:福岡県中小企業団体中央会

・株式会社ギラヴァンツ北九州・九州シネマ・ポート

後援:北九州市・NHK 北九州放送局・朝日新聞社・西日本新聞社

・毎日新聞西部本社・読売新聞西部本社

会場:北九州市立商工貿易会館会館 2 階ホール:古船場町 1-35 モノレール旦過駅そば

